

【3】日本で唯一つの橋上市場

イタリアのフィレンツェは街全体が博物館のような美しい都市ですが、街の中を流れるアルノ川に架かっているポンテヴェキオという橋がよく知られています。

橋は石造りの3連アーチでヨーロッパでは珍しくもないのですが、橋の上が4階建ての建物で一階の橋面は通路をはさんで両側に商店が並んでいて観光名所となっています。

実は日本にもかつて、三陸の港湾都市である岩手県釜石市を流れる二級河川甲子川（かっしがわ）の橋の上に「橋上市場」と呼ばれる50軒ほどの店舗からなるマーケットがありました。

洪水と水害の多いわが国では、橋の上にわざわざ集客施設を設けるなどということは河川管理上からあり得ないのですが、敗戦後の混乱時に道路上にあった露店を移転させるための仮施設として、地元釜石市が既存の道路橋を拡巾し、その上に長さ106mの細長い橋上マーケットを建てたのです。

昭和30年代初めの頃のことですが、当時、旧河川法では河川管理者は県知事だったので地元の熱意に根負けした県が全責任を負うとし、仮施設だからと占用期間を5年と限って許可したものです。

こうして市場は、昭和33年（1958）に開設され、占用期限が迫るたび県当局は市場側と移転交渉をしましたが埒らず、占用延長をくり返しました。

橋上市場は、魚介、野菜、雑貨など生活必需品を販売し、市民に不可欠な存在となり、また、観光名所としての人気も高まり大いに繁盛したので、市場側には移転への動機が薄かったのです。

最終的に交渉がまとまり橋上市場が移転したのは平成15年（2003）1月のことで、開設以来、実に45年後のことでした。県土木部の長年にわたる努力の成果でした。

市場の撤去時には大きなニュースとなり、東京のテレビでも報じられたが、市場の人々の生活を破壊し市民生活にも不便を強いる措置だとして県が非難されました。

橋上市場及び市場のあった橋は撤去され、新しい道路橋として生まれ変わったのは平成17年（2005）のことであり、そのわずか6年後の平成23年（2011）に東日本大震災の大津波に襲われましたが、新橋は全く無傷でした。

高さが低く建設後50年以上経過し、老朽化も進んでいた旧橋だったら、津波により市場ごと流失し人命を含む大きな被害を生じたことでしょう。

この話は、津波の他の大被害に隠れて報道もされませんでしたし、県当局も寡黙を貫き通したのであえて紹介する次第です。